

平成 30 年 4 月 30 日

## 平成 29 年度第 5 回児童部会「お話（素話）から学ぶ」報告書

- 1 日時:平成 30 年 1 月 19 日（金） 午後 2 時～
- 2 場所:ヴィアックス研修センター（鳩山ビル 6F）
- 3 参加者:22 名（児童部会 20 名 見学者 2 名）
  
- 4 発表
  1. ねことねずみ（イギリスの昔話） 『おはなしのろうそく 21』  
(東京子ども図書館)
  2. ならずもの（グリムの昔話） 『愛蔵版おはなしのろうそく 9 ホットケーキ』  
(東京子ども図書館)
  3. まのいいりょうし（日本の昔話） 『子どもに語る日本の昔話 3』  
(こぐま社)
  4. 12 の月のおくりもの（スロバキアの昔話）  
『愛蔵版おはなしのろうそく 1 エパミナンダス』(東京子ども図書館)
  5. アナンシと五（ジャマイカの昔話） 『子どもに聞かせる世界の民話』  
(実業之日本社)
  6. こすずめのぼうけん（創作） 『おはなしのろうそく 13』  
(エイズワース、東京子ども図書館)
  7. あなのはなし（創作） 『愛蔵版おはなしのろうそく 2 なまくらトック』  
(ミラン・マラリーク 東京子ども図書館)
  8. だめといわれてひっこむな（創作）  
『愛蔵版おはなしのろうそく 5 だめといわれてひっこむな』(東京子ども図書館)
  9. 森の家（グリムの昔話） 『愛蔵版おはなしのろうそく 10 まめたろう』  
(東京子ども図書館)
  10. あくびがでるほどおもしろい話 『愛蔵版おはなしのろうそく 3 ついでにペロリ』  
(東京子ども図書館)

### 5 語り手及び参観者の感想

- ・「ねことねずみ」は、くりかえしのところが覚えやすそうがいい
- ・「ならずもの」は、「そうして」、「こうして」など話のつながりを言い間違えやすく、そこを覚える時に苦労した。宿屋の主人が救われない話で少しかわいそうだと感じた
- ・「まのいいりょうし」は、その土地出身者が語る方言の響きがよく、言葉の持つ力を感じた作品であった。
- ・「12 のつきのおくりもの」は場面展開がいい作品で、月の精の表情が見えるようだった

- ・「アナンシと五」は、登場人物の声を変えていたので、情景がわかりやすかった
- ・「こすずめのぼうけん」は、語りにこすずめの不安さが出ていてよかった
- ・「あなのはなし」は、落語のようなはなしで面白い
- ・「だめといわれてひっこむな」は、暖炉やセーターなど冬の季節がぴったりだと感じた
- ・「森の家」は、話の展開がしっかりしている、動物たちの声色と間の取り方で話が伝わる。  
昔話の持っている力を感じた作品
- ・「あくびがでるほどおもしろい話」は、さかさ言葉をわざとかさねてある話なので、言葉をセットで覚えていくと良い

## 6 所感

十人十色それぞれが自分の持ち味を生かし、素話を語っていた。言葉や昔話の持っている力を感じる作品などもあり素話の魅力を感じることが出来た。今日体験したことを次回の発表に生かしていきたいと感じた。

以上